

沼隈郡

郡なり、西城町を以郡本とす。略 下
〔日本國郡沿革考三陽道〕備後略 中 沼隈 四十三村

品治郡

〔續日本紀四元明〕和銅二年十月庚寅、備後國葦田郡甲努村、相去郡家、山谷阻遠、百姓往還煩費太多、仍割品遲郡、三里、隸葦田郡甲努村。

〔三代實錄九清和〕貞觀六年十一月十日癸巳、備後國品治郡人左史生從八位上品治公宮雄、改本居貫山城國葛野郡。

葦田郡

〔續日本紀四元明〕和銅二年十月庚寅、備後國葦田郡甲努村、相去郡家、山谷阻遠、百姓往還煩費太多、仍割品遲郡、三里、隸葦田郡甲努村。

〔續日本紀八元正〕養老三年十二月戊戌、停備後國安那郡茨城、葦田郡常城。
〔日本靈異記下〕鬻體目穴筭揭脫以祈之、示靈表緣第廿七

白壁天皇世、寶龜九年戊午冬十二月下旬、備後國葦田郡大山里人品知牧人、爲買正月物、向同國深津郡於深津市而往、中路日晚、次葦田郡於葦田竹原。略 中 從市還來、次同國竹原、時彼鬻體及現、生形而語之言、吾者葦田郡屋穴國郷穴君弟公也。略 中 我父母家有子屋穴國里。略 下

甲奴郡

〔藝藩通志百二備後國〕甲奴郡、疆域形勢 風氣附

甲奴郡は元明天皇の御宇より置かれしと見ゆ、按に續日本紀に、和銅二年冬十月庚寅、備後國蘆田郡甲努村、相去郡家、山谷阻遠、百姓往還煩費太多、仍割品遲郡、三里、隸蘆田郡甲努村とあり、異本に末の甲努村の上に建郡於の三字あり、類聚三代格、三代實錄、並に甲努に作り、今或は努の字を用ふ 倭名抄甲努に作り、加不乃と訓せり、されば今もかふのといふべし、奴は古は野の訓にも用ゆ、三次郡布努を布野とよむ類なり、甲努の名考ふべからず、神野、河野などの義にてもあらんか、今の藩府廣島の東廿一里にありて、全郡は他領入交りて、藩の所管は廣一里餘、東は稻草村割岩より、西は